おお大勝利

令和２年度　山東サッカー部報第９号（3 月 13 日）

サッカー部保護者の皆様、ＯＢ・ＯＧの皆様、日頃より本校サッカー部の活動にご理解とご協力を賜りまして、感謝申し上げます。

皆さま、**大変大変遅いご挨拶となりましたが・・・**

明けましておめでとうございます。今年もよろしくお願い致します。

共通テストが終わった 1 月中旬から、新年号書かなきゃと思ってましたが、「いや、冬期の校内合宿終わってからだろ～」なんて横着を正当化する考えが浮かびました。しかし、当初企画された 3 回の冬期校内合宿のうち、1 月 8 日～10 日の 1 回目こそ実施できたものの、1 月 22 日～24 日の 2 回目、2 月 5 日～7 日の 3 回目の校内合宿は、新型コロナ感染症の感染拡大を考慮して中止となる。考査による部活休みが 2 月 8 日～17 日までありましたので、もし感染状況が許せば、考査後にせめてもう一回は実施したいと考えていた[1]。すると、部報の発行は 2 度目の合宿を終えて、3 月に入ってからになる。という形で、どんどん先延ばししてきました。3 月に入り、ようやく書いています。部報を楽しみに待っていて下さった読者の皆様、大変お待たせしました！

唐突ですが、新年号では必ず触れている**恒例の？**部報作成者顧問今野の**残留確率の発表**と行きましょう。来年度（令和 3 年度）の今野の残留確率は **26%** です！！　この確率の「計算式」については、HP にて平成 29 年度の部報最終号（16 号）をご覧になって下さい。1 年ずつ 7%減少していきます。とうとう、**残留確率が 4 分の 1 に**なりました。今年で山東 15 年目ですから、毎年が勝負です。口の悪い私立強豪高校のとあるコーチからは、「出る（異動で山東を出る）という話は、恒例の出る出る詐欺だから」と言われてしまっております。確かに、近年、毎年「危ない」と言っては残留している。毎年聞かされると、「またか」「んで結局残留かよ」という気持ちになるのは分かる。でもね～、人事ばかりは、よく分からないですからね。ちなみに、今年人事関係で変化があったのは、残留希望（というより不異動希望）の中で、積極的残留希望と消極的残留希望という区別が設けられたこと。勤務校が長くなった教員にのみ、積極的に残留したいのか、他に適当な選択肢がないから仕方なく残留したいのか、という質問項目が設けられました（人事の面談にて）。人事についての事柄をあまり公の場で明らかにするのは不適切でしょうから、「私の立場は前者です」とだけ、ひっそりお伝えしておきましょう。

さて、前号が選手権後の 10 月 30 日号でしたので、その間の出来事をすべて書きたいと思います。❶一年生大会（11 月 21 日、23 日）、❷後援会主催の納会（12 月 18 日）、❸校内合宿（1 月 8 日～10 日、2 月 26 日～28 日）、❹卒業（3 月 3 日）、❺大学入試結果速報。

1年生大会　久々の勝利後、日大に完敗

山形の高校サッカーのカレンダーを前提にすると、11 月と言えば県新人の月です。しか

[1] 実際 2 月 26 日～28 日に 2 回目の合宿は実施されました。

し、山東は 4 年連続で出場できませんでしたので、非公式戦ではありますが一年生大会が 11 月のイベントということになります。**今年は、2 年ぶりに 1 年生部員が 11 人を超え、他の部からレンタルしなきゃいけない状況ではない**。それだけで、ホッとします。しかし、欲張りにも、「サッカー経験者だがサッカー部に入っていない 1 年生に広く声をかけ、久しぶりにサッカー経験を積んでもらいたい、その上で・・・」などと企んだ。当初は、1 年生に GK がいなかったこともあり、「GK やりそうな経験者を探そう」から始まりましたが、**「宮川のおしゃべり野郎」ジャッカルことソーゴ**が GK になってくれたので、FP で声をかけた。すると、山形九中出身でチョコの元チームメートにして、仮入部期間サッカー部の練習に来ていた**コータロー**が、名乗りを上げてくれた。ひょんなつながりですが、コータローの父は、私の上の息子コーゾーの小学校の担任です。とまあ、このことはどうでもいいのですが、コータローを含め 15 人で試合に臨む。

初戦の相手は山形学院。終始山東ペースで、勝利を収める。コータローも後半から出場し、ダイナミックなプレーを披露してくれる。そのことは覚えている。でも誰の得点で勝ったのかなど、覚えていない。後藤報道局長管理の「山東サッカー後援会」HP で確認したところ、**チョコの 2 ゴール**による 2-0 だったとのこと。これらは全然覚えていないのだが、すんごく覚えているのが、**米沢の大砲ヒロト**が左から仕掛けて数人抜いて上げたグラウンダーのセンターリングを、10 月の骨折から復帰したての**ヤマノベスタ（山辺出身者）ナナちゃん**がヒロトへのリターンパスかと驚くほどの急角度のシュートで、外したこと。「あれは決めないとヒロトさんに悪いよ」、そんなことを思ったことはとてもよく覚えている。そんな悔しい思い出だけあるようだが、まあ快勝だからよしとしましょう。

そして、次戦は、1 回戦と同じ会場の会場校の日大山形。今年の全国高校サッカー選手権出場チームの 1 年生チーム。山東の今年の 1 年生の代、こういう強豪チームと当たってどのくらいやれるかが、見たかった。タレント豊富で黄金世代とかプラチナ世代という程では全然ないが、これまでの山東にはなかったポジションのバランスの良さが、この学年にはある。GK 以外、コンバートをせずとも 11 人組める。

さあ、試合はどうか。といって、良い再現したいのですが、日大山形の寄せの速さ、予測の良さに、有効なプレーが何もできない。「相手がこう来ているから、こう打開して・・・」というような、ビジョンの感じられるプレーが少なすぎる。結局、5 失点。HP では、CK から**組長グッチ**がヘディングシュートを決めたとあるが、そうだったっけ。いずれにせよ、試合が決した状況での得点だっただろうことは間違いない。**スコア 1-5**。日大山形が強いとかうまいとか速いとか以前に、相手の状況を観て効果的なプレーを選ぶ狙いのあるプレーができていない。もちろんこれは、難しいプレーではありますが、サッカーの醍醐味でもある。サッカーは相手のプレーを前提にした対人競技。「自分はこうしたい」だけでは独りよがり。「相手がこう来ているから、こうしてやろうか」とか、「こうやることで、相手をああさせて、そんでもってこうしてやろうか」というのが、サッカー選手の狙いというもの。日大山形相手に、サッカーの原点を見つめ直させられた、そんな一年生大会でした。

初の飲食なしの納会　優秀選手賞は授与

12 月 18 日（金）**第 39 回**山東サッカー部納会が山東会議室にて行われました。例年、山形市の中島商店にて「すき焼きを食べる会」なのですが、コロナ対策として授与式のみ挙

行されました。もちろん、**マネージャーが作成した一年間の公式記録集**は作成。来年こそ、伝統を絶やさないで挙行したいものです。

まず会長から今年一年の悔しさ嬉しさを総括するお話と 3 年生への受験の激励のあと、4 名の優秀選手賞を発表し表彰。例年 5 名ですが、今年は県総体がなく、公式戦に出場しないで引退という選手が多かったので、**4 名しか該当者はいないと判断**しました（その 4 名の授賞理由は下の通り）。OB の方々から激励の一言を頂戴し、2 年生キャプテンの感謝の言葉があった後は、3 年生の決意の言葉で終了。3 年生は納会で述べた志望をぜひかなえてほしいと思いました。

会終了後、OB の方とお話しする機会がありました。その若手？OB の方々からは、「OBOG の期待をプレッシャーに感じることなく頑張ってほしい」「でも期待はしているよ」と温かい言葉を頂戴しました。その「**気遣いある期待**」に、改めて頑張りたいと思わされました。プレッシャーをかけられたいわけではないですが、OBOG が現役生の活動に興味を失うというのもイヤ。***OBOG が期待を持って見守ってくれてることに、素直に喜びを感じます***。現役生はそんな OBOG に囲まれている喜びを感じ、頑張りましょ！　そして、将来はそんな OBOG に育っていくのですよ。

中野颯人

1 年生の時からスピードはあり期待された選手。ただ、ドリブル含めたオンザボールのプレー精度や判断の問題もさることながら、球際の弱さ、常にプレーに関われない集中力のなさ、そして何よりも優しすぎる気持ちの弱さがあり、能力を持て余す時間が長かった。故障も多く、プレーしては離脱を繰り返した。しかし、2 年途中から徐々にスピードを生かしてゴールに直線的に迫るプレーができてきて、2 部リーグの試合では警戒される選手となった。このまま伸びて、3 年で集大成を期待させたところでコロナによる中断期間を迎えたが、復帰後は自分で自分の成長が感じられそれを公言するほど自信に満ち溢れてプレーをした。キックはパンチ力があるものの、焦ってしまうためダフルことが多かったが、大学で落ち着いてプレーすることを身につければ、ミドルシュートもある怖いドリブラーになる。2 年から 3 年にかけて伸びた選手であり印象深い。代替試合の最終戦にて、3 年最後の試合で絶対に勝ちたい中、起死回生のボレーシュートを突き刺し勝利を呼び込んだ光景が、目に焼き付いている。

風間翔巴

誠実な人柄、周りを見て自分に必要なことに気づき、率先して行動できる。集団に一人はこのような「しっかり者」がいて欲しいと思わせる選手。自分で動き過ぎるものだから、逆に後輩が育たず、しばしば「お前がやらずに後輩にやらせなさい」と顧問から注意を受けるほどだった。もちろん GK の練習には人一番ストイックに取り組んだ。上にはレフティーモンスターの先輩、下には県トレセンの後輩に囲まれ、なかなか出場機会に恵まれなかったが、腐ることもあきらめることもせず、自分に何が足りないのか、何を伸ばせばよいのか分析してプレーした。人間性、サッカーへ向き合う姿勢が同輩先輩に評価され、副主将となった。新チームになると、後輩 GK が FP にコンバートされたことで出場機会を増やし、また 3 年になると、3 年生優先の代替試合となったことで全時間をピッチで過ごし、練習の成果を発揮することができた。偶然ではあったが、彼のひたむきさが幸運をもたらしたと言ってよい。ハイボールの処理を含め、伸び代はまだまだある。将来は、何らかの責任ある立場になり、社会に貢献してもらいたい。

角田行崇

ジュニアユースをクラブチームで過ごし、入学前の千葉遠征から活動に参加した意欲のある選手。技術、フィジカル共に非凡なものがあり、勝気な性格もあいまって、1年生からレギュラーポジションを獲得した。ただ、自分のメンタルの波を抑えて目の前のプレーに集中することができず、試合でも練習でも、的確な判断を欠く場面がみられた。スキルの中でも両足のキックの精度に素晴らしいものがあり、中央でチームを動かす司令塔役が期待されたが、本人は性格通り自由奔放なプレーのできるアウトサイドにこだわった。3年リーグ戦での左足でのミドルシュートや、2年リーグ戦での右足ロングシュートなど、素晴らしいプレーが目に焼き付いている。反面凡ミスも目立ったが、メンタル含めて発展途上にあり、ドリブルするか否かの判断や自分の背後の視野の確保など、課題を克服すればより総合力の高い選手になるだろう。グラウンドマネージャーとして貢献しただけでなく、ヒラマサと一緒に選手権まで残り、オサ先輩の路線をしっかり継承した功績も評価できる。

高橋昂大

180ｃｍを優に超える恵まれた体躯を活かしたダイナミックなプレーが印象的。貴重な左利きでもあり、1年生から左ＳＢで活躍した。中学まで競争的環境でプレーしてきたとはいえず、入学当初まったく磨かれていなかったが、「化ける」可能性を大いに秘めた期待の選手だった。1年生では、最後止められず相手にゴールを許したり、自ゴール付近で失点に絡むミスをしたり、甘さがあったが、2年生になると対人がすこぶる強い頼りがいのある選手に成長した。2年途中からはＣＢだけでなく、ＦＷとしてプレーし幅を広げた。3年でＦＷとしてブレークしてほしかったが、コロナ禍の中断でブレークの機会を逸したのは何とも悔やまれる。ただ、苦しい状況下でも主将として奔放な学年をよくまとめ、最後気持ちの良い形で引退を迎えたのは、彼の人間性の成長あってのことだった。オフザボールの駆け引きとか、ヘディングとか、まだまだ磨かれていない部分が多く、高校生活を経ても「未完の大器」の印象がある。最も印象的なプレーが 1 年時のプレーで申し訳ないが、リーグ戦でのノブのＦＫを大外からヘディングで突き刺したシュートは、本当に鳥肌ものだった。

恒例の校内合宿実施！

近年の冬の山東は、コロナとは関係なく県外遠征に全く行かず、校内合宿で力を溜める方針でやってきました。その理由は、①降雪のため外で練習できないが、体育館なら朝と晩は空いており、合宿なら朝晩の 2 部練できる、②運動選手らしからぬ細い体型の選手ばかりなので食事合宿としても有効、③満足に練習できていないのに県外遠征に行っても得られるものが少ない（冬場の Training を Match で確かめるほど、良い Training 積めていないので、まずは良い Training をしっかり積みたい[2]）というもの。

一枚目左で述べたように、事情により今年は **1月8日～10日、2月26日～28日の2回実施**。朝練は 5:00 開始。夜練は 19:00 開始。その間は、休息だったり、学習だったり、

[2] この英語表現は、よく指導法で言われるところの MTM のサイクルを意識しています。試合 Match の分析から Training の内容を導き、その成果として再び Match を設定するという流れ。山東にある程度力があった時代は Match→Match→Match でも向上していけましたが（ある程度以上の選手は試合の中で、試合によって成長していけるが）、ある頃から現状の山東に合っていないと感じ始めました。

フィジカルトレーニングだったり[3]。朝練と夜練の間には、**器のデカさを感じる２年マネージャーミクリ**と、**部活動が学習意欲にもつながっている１年マネージャーミナミ**の握るおにぎりを頬張る。そんでもって、朝昼夕の三食は**デーリックさん**によるガッツリした食事。腹パンパン、そして寝不足気味になりますが、多くの OB が「辛かったけど、一番うまくなった実感がある」と評するのが、山東の校内合宿なのです。2 回目の合宿には、コロナ予防の自粛期間を置いたうえで、**東北大の２名（フトシ、ババ）**と**千葉大の１名（タカヒラ）**が参加してくれて、共にプレー。そのプレーや声掛けで、現役生が自分たちだけで練習していては気づかない刺激を与えてくれました。3 人ありがとう！

一昨年まではドリブル主体の練習、昨年はパス主体の練習を合宿を含め冬期間実施してきましたが、今年は練習 Training は最低限にして、とにかくゲーム Match を繰り返す[4]。ゲームでの課題は各自、ウィークデーの練習で克服に励めばよい。「なぜ練習をするのか」「なぜこの練習をするのか」という問いへの答えが宙ぶらりんのまま、練習したって効果がない。これも近年感じていたこと。**試合で上手くプレーしたい、試合で勝ちたいから、これを練習するんだ、という高いモチベーションのもと練習してもらいたい**。これは、競技者としてあるレベル以上であれば、教わることではない。しかし、山東の選手たち、「お利口さん」なのでやれと言われれば真面目に取り組みはしますが、あまりに身につかない、だったら気持ち（練習へのモチベーション）自体をまず作らなければならない。そんな思い。結局、トレーニングって、その選手の中でトレーニングを通じて得たいことが不明確なまま実施したって、効果薄いんですよね。厳しく言えば、「やっているつもり」になっていただけ。これって勉強でも同じ。**頭を働かせない作業勉強**[5]を時間をかけてやったところで、実力はつかない。2h 勉強したって、頭に入ってなかったら無意味。**基準は、やったかやらなかったかではなく、身についたか、頭に入ったか、再現できるか、すなわち実力がついたか、ただ一点**。山東の選手たち、作業勉強のような練習を続けても、何にもならないことに速く気付いてほしいところ。

厳しいことも書きましたが、シーズン明けてから、冬場のトレーニングの成果が出ることを期待しています。2021 年シーズンも山形東をよろしくお願い致します。

3年生の卒業　そして進学

3 年生が 3 月 3 日卒業を迎えました。これまで年度の総括号が 1 月か 2 月に書かれていたので、卒業や大学合格について書かれることがありませんでしたが、幸か不幸か、今年は「年度総括号」が 3 月の発行となったので、卒業や進学についても書きたいと思います。紙幅に余裕もありますしね。

---

[3] 今年の合宿のフィジカルトレーニングは、2 回とも**芹川トレーナー**にお願いし、チューブトレーニングを実施しました。

[4] といっても、もちろん体育館の中での練習内でのゲームです。

[5] たとえば、英語の長文読解に際して、まず不明な単語を調べて、書き写すのに 1 時間かける、こんな勉強。でも 1 時間の勉強をふり返っても、一つの単語も頭に入っていない。そんなことよくあります。これ作業勉強の典型。また、社会科の勉強とかで、時間をかけて何かをきれいにまとめて時間だけ過ぎる、でも頭には入っていない。こんな勉強も作業勉強の典型です。

今年の卒業生は**山東第 71 回卒業**、山形中学校から数えれば **136 回の卒業**となります。今年の卒業生が高校生活の集大成の一年を①コロナ禍に振り回されたことは、多くの方が指摘しておりますし、ここでも記してきました。加えてなのですが、この 3 年生は、共通テストの初年度に当たり、また、その共通テストにて②記述式を導入するか否かと③英語で民間の検定試験を導入するか否かでもめにもめ、いったん導入が決まったものの直前でひっくり返るという大人の稚拙な行動によって、振り回された学年でもあります。②③は、現場の役人（文部科学省の官僚の方々）はその無謀さ・非現実性がわかっていたのでしょうが、「官僚主導から政治主導へ」という 1990 年代後半からのもろもろの改革の結果、政治家に異を唱えることができないまま政治家の打ち上げたアドバルーンを維持し続け、最後に大破した、ということなのでしょう。いずれにせよ、今年の 3 年生は、「もういい加減にして」と大人に、社会にウンザリせざるを得なかった、そんな学年です。

しかし、今年の 3 年生は、担任団の多くの教員がそう語ったように、腐ることなく、**穏やかに事態を受け止め、健やかに育ちました**。卒業会名が、**健穏会**と命名されましたが、そうした 3 年生を讃えての担任団の選択でした[6]。もちろん、卒業生が今年ひたすら検温し続けたことも、この会名の由来の一つです。後々まで覚えやすい、良い会名ができました。

さて、サッカー部 3 年生の進学ですが、もちろん現段階では国公立前期の結果しか出ておらず、途中経過にしかすぎません。しかし、選手権まで残った 3 年生の一人が、オサ先輩に継ぎ、筑波大学の体育に合格したり、1 年生に弟のいる 3 年生が横浜市立大学の医学部医学科に合格したり、成果が出ています。現役生に関しては、東北大は厳しい結果となりましたが、新潟大学では「スマッシュヒット」（A 一先生の表現）を飛ばした者もいました。

浪人生に関しても最終的な結果はまとめてお伝えしたいと思います。ただ、この号でお伝えしたい OB が一人います。**山東第 68 回卒（ハレルの代）のリキ**。黒豹とのあだ名のあった選手です。リキは**東北大学薬学部志望**。東北の薬と言ったら、我々の世界では「まず受からない」という評判の狭き門。**3 浪**という苦難に打ち勝ち、今年合格を勝ち取りました！**リキ、おめでとう。よく耐えて頑張ったね！！**

現役生や浪人生の中には、今年浪人する者も出ることでしょう。山東サッカー部で培ったど根性で、苦難を乗り越え栄冠を勝ち得てほしいと思います。

---

[6] もともとの発案は、生徒からの応募。その候補の中から、担任団で健穏会を選ばせてもらいました